



2013

復活第62回（通算82回）

H. I. 盃選手権試合

全三菱庭球大会

平成25年10月25日・26日・27日

三菱東京UFJ銀行	武蔵野コート
東京海上日動	多摩コート
日本郵船	飛田給コート

三菱庭球同好会

## 目 次

H. I. 盃選手権試合と全三菱庭球大会について .....	2
H. I. 盃選手権試合・全三菱庭球大会戦績表 .....	3
H. I. 盃選手権試合・全三菱庭球大会開催要項 .....	7
大会次第 .....	9
諸注意事項 .....	10
H. I. 盃選手権試合組合せ .....	11
女子ダブルストーナメント組合せ .....	11
男子ダブルストーナメント組合せ .....	12
140オトーナメント組合せ .....	13
120オトーナメント組合せ .....	14
東西対抗試合組合せ .....	15
時間およびコート時間割 .....	16
大会会場・懇親会会場案内図 .....	18
H. I. 盃 NAVI .....	20

### 開会式へ参加のお願い

第3日(10/27)銀行コートで試合  
予定の選手は、8:30から銀行  
コートで開会式を行いますので  
原則、必ずご参集願います。

### 大会プログラム

大会当日は配布しませんので、  
ご持参ください。

## H. I. 盃選手権試合と全三菱庭球大会について

H. I. 盃選手権試合の歴史は、大正11年にまで遡ります。この年の10月、ロンドンにご外遊中の岩崎彦彌太様より三菱倶楽部庭球部に銀製カップが寄贈され、イニシャルを戴き、「H. I. ロンドンカップ」と名付けられました。翌大正12年、このH. I. 盃を争って第1回全三菱男子シングルス試合（H. I. 盃選手権試合）が開催されました。その後、毎年定例の行事として挙行され、今年で82回を数えるに至っています。

これに先立ち、関東関西戦が大正5年から毎年開催されており、昭和27年の復活第1回H. I. 盃選手権試合／東西対抗戦（戦争の為昭和18年から中断）に際しては、新たに「100オトーナメント（45才以上ダブルス）」（以降105才、110才及び115才を経て現在では「120オトーナメント」）が加えられ、また、昭和47年には岩崎操子様よりカップが寄贈され、「女子ダブルス選手権試合」が設けられました。そして昭和58年より新たに65才以上のペアーによる「130オトーナメント」（平成25年から「140オトーナメント」に変更）が設けられ、岩崎寛彌様からカップが寄贈されました。平成18年より、さらに「男子ダブルス選手権試合」が設けられました。

これらのH. I. 盃選手権試合を中心とした各種目庭球試合の総称が、「全三菱庭球大会」であり、現在では、三菱企業グループ31社が参加し、各地区の予選も含め、全国的なレベルでますます盛んに繰り広げられています。



第1回 H. I. 盃 (大正12年 東京・染井コート)

## H. I. 盃選手権試合・全三菱庭球大会戦績表

### I. 復活前

回数	年 度	開催地	委員長	H. I. 盃	関東関西戦	
					回数	勝者
	1916 大正5	神 戸			1	雨天の為中止
	1917 大正6	東 京			2	記録なし
	1918 大正7	神 戸			3	米騒動の為中止
	1919 大正8	名古屋			4	記録なし
	1920 大正9	名古屋			5	記録なし
	1921 大正10	東 京			6	関東
	1922 大正11	名古屋		10月カップ創設 軟式から硬式へ	7	記録なし
1	1923 大正12	東 京	河手捨二 (商事取締役)	岩永侃爾 (門司・鉱業)	8	関西 7-5
2	1924 大正13	神 戸	山口泉吉 (重工神戸造船所長)	青木岩雄 (東京・銀行)	9	関東 9-6
3	1925 大正14	名古屋	松本辰三郎 (内燃名古屋製作所長)	扇山正男 (名古屋・内燃)	10	関東 9-4
4	1926 大正15	東 京	荘田達弥 (造船研究所長)	岩永侃爾 (東京・鉱業)	11	関東 12-3
5	1927 昭和2	神 戸	徳大寺則麿 (重工神戸造船所長)	青木岩雄 (東京・銀行)	12	関東 10-5
6	1928 昭和3	東 京	三好重道 (製鉄取締役)	神田道朝 (関西・保険)	13	関東 8-7
7	1929 昭和4	神 戸	山室宗文 (銀行常務取締役)	青木岩雄 (関東・銀行)	14	関西 10-5
8	1930 昭和5	東 京	荘田達弥 (造船研究所長)	牧野 元 (関東・航空)	15	関東 8-6, 1分
9	1931 昭和6	神 戸	徳大寺則麿 (重工神戸造船所長)	牧野 元 (関東・航空)	16	関西 12-2, 1分
10	1932 昭和7	東 京	三好重道 (製鉄取締役)	志村彦七 (中京・航空)	17	関西 8-7
11	1933 昭和8	神 戸	田中金之助 (倉庫取締役)	後藤 長 (中京・航空)	18	関西 12-3
12	1934 昭和9	名古屋	本間亀吉 (電機名古屋製作所長)	後藤 長 (中京・重工)	19	関東 11-4
13	1935 昭和10	東 京	佐藤梅太郎 (合資参与総務課長)	後藤 長 (中京・重工) 決勝は5→3セットマッチへ	20	関東 10-5
14	1936 昭和11	神 戸	玉井喬介 (重工社長)	石井小一郎 (関東・地所)	21	関西 8-6, 1分
15	1937 昭和12			支那事変のため中止	22	
16	1938 昭和13	東 京	間 四郎 (電機常務取締役)	志村彦七 (中京・重工)	23	関西 8-7
17	1939 昭和14	名古屋	後藤直太 (重工取締役)	志村彦七 (中京・重工)	24	雨天中止
18	1940 昭和15	東 京	間 四郎 (電機常務取締役)	中野文照 (関東・鋼材) <ダブルス>熊谷一彌・関沢房豊	25	関西 9-6
19	1941 昭和16			中止	26	中止
20	1942 昭和17	東 京	間 四郎 (電機常務取締役)	林 新緑 (関西・電機) <ダブルス>田村亮・扇山忠男	27	記録なし

II. 復活後

回数	年 度	開催地	委員長	H. I. 盃	130才トーナメント	120才トーナメント	女子ダブルス	東西対抗試合
1	1952 昭和27	東 京	石黒俊夫 (本社精算人)	藤倉五郎 (金商)	100才→	岩崎彦彌太・ 山岸成一		関東 10-3, 3分
2	1953 昭和28	神 戸	藤井深造 (新重工社長)	藤倉五郎 (金商)		住友・池上 (電機)		関東 13-6
3	1954 昭和29	名古屋	高杉普一 (電機社長)	藤倉五郎 (金商)		富田・河尻 (金属・金商)		関東 19-5
4	1955 昭和30	東 京	石黒俊夫 (地所社長)	藤倉五郎 (金商)		西 ・神田 (商事・海上)		関西 18-12
5	1956 昭和31	大 阪	古村誠一 (金属鋁業社長)	藤倉五郎 (金商)		西 ・服部 (商事・新重工)		関西 19-13, 1分
6	1957 昭和32	東 京	高垣勝次郎 (商事社長)	藤倉五郎 (金商)		藤島・森野 (銀行・海上)		関東 21-17
7	1958 昭和33	大 阪	伊藤保次郎 (鋁業社長)	寺岡健吾 (化成)	105才→	石井・高萩 (地所・鋁業)		関西 23-14
8	1959 昭和34	東 京	佐藤 尚 (造船社長)	石黒 修 (電機)		雨天中止		雨天中止
9	1960 昭和35	東 京	桜井俊記 (重工社長)	石黒 修 (電機)		鈴木・山岸 (金属・商事)		関西 21-17
10	1961 昭和36	東 京	柴田周吉 (化成社長)	石黒 修 (電機)		石井・武井 (地所)		関東 24-21
11	1962 昭和37	大 阪	浜川友十郎 (倉庫社長)	石黒 修 (電機)		樋口・古矢 (銀行)		関東 23-22
12	1963 昭和38	東 京	宇佐美 洵 (銀行頭取)	石黒 修 (電機)	110才→	中山・山岸 (金属・商事)		関東 26-19
13	1964 昭和39	東 京	藤岡信吾 (石油社長)	石黒 修 (電機)		大淵・塚田 (地所)		関東 29-18
14	1965 昭和40	東 京	千頭暎臣 (信託社長)	藤井道雄 (電機)		山岸・柴田 (商事・化成)		関東 27-23
15	1966 昭和41	大 阪	藤野忠次郎 (商事社長)	藤井道雄 (電機)		樋口・一法師 (銀行・商事)		関東 36-17
16	1967 昭和42	東 京	河野文彦 (重工社長)	山岸 孝 (明生)		浅田・塚田 (銀行)		関東 41-18
17	1968 昭和43	東 京	野村義門 (重工顧問)	山岸 孝 (明生)		大藤・山岸(二) (セント・商事)		関東 36-22
18	1969 昭和44	東 京	有吉義彌 (郵船社長)	藤井道雄 (電機)		岩倉・山岸(二) (郵船・商事)		関東 39-28
19	1970 昭和45	東 京	牧田与一郎 (重工社長)	山岸 孝 (明生)		堤 ・塚田 (銀行)		関東 33-24, 13分
20	1971 昭和46	東 京	田実 涉 (銀行会長)	大日方昭太 (海上)		岡本・三好 (金属)		関東 42-28
21	1972 昭和47	東 京	藤野忠次郎 (商事社長)	藤井道雄 (電機)		河尻・藤倉 (金商)	島野・青井 (海上・重工)	関東 43-31
22	1973 昭和48	東 京	中田乙一 (地所社長)	山岸 孝 (明生)		雨天中止	原・市井 (海上)	雨天中止
23	1974 昭和49	東 京	古賀繁一 (重工会長)	宮川善文 (大日)		雨天中止	小畠・塚本 (電機)	雨天中止
24	1975 昭和50	東 京	古賀繁一 (重工会長)	辻本 豊 (レイヨン)		田中・笥 (重工)	島野・塚本 (海上・電機)	関東 41-35, 1分
25	1976 昭和51	東 京	古賀繁一 (重工会長)	有沢三治 (油化)		雨天中止	島野・塚本 (海上・電機)	雨天中止
26	1977 昭和52	東 京	古賀繁一 (重工相談役)	藤井道雄 (電機)		北岡・高橋 (電機)	針谷・中井 (重工)	関東 54-28
27	1978 昭和53	東 京	古賀繁一 (重工相談役)	藤井道雄 (電機)	115才→	関口・西尾 (重工)	三枝・堀毛 (電機)	関東 44-37, 1分
28	1979 昭和54	東 京	古賀繁一 (重工相談役)	藤井道雄 (電機)		御供・林田 (重工・製鋼)	西浦・三枝 (電機)	関東 49-33
29	1980 昭和55	東 京	古賀繁一 (重工相談役)	小柳健一 (商事)		吉岡・佐久間 (キャタ・重工)	作山・植村 (化成)	関東 41-20, 21分

回数	年度	委員長	H. I. 盃	130オトーナメント	120オトーナメント	女子ダブルス	男子ダブルス	東西対抗戦	
30	1981 昭和56	古賀繁一 (重工相談役)	小柳健一 (商事)		樺原・古賀 (化成・樹脂)	作山・植村 (化成)		関東 49-33	
31	1982 昭和57	田部文一郎 (商工会長)	武田 彰 (商事)		中野・高橋 (電機)	島野・今井 (海上・重工)		関東 40-37, 5分	
32	1983 昭和58	田部文一郎 (商工会長)	辻本 豊 (レイヨン)	安川・吉岡 (キャタ)	北岡・中野 (電機)	島野・今井 (海上・重工)		関東 33-27, 22分	
33	1984 昭和59	田部文一郎 (商工会長)	辻本 豊 (レイヨン)	末延・関口 (重工)	妹尾・青木 (銀行)	島野・今井 (海上・重工)		関東 47-34, 1分	
34	1985 昭和60	田部文一郎 (商工会長)	辻本 豊 (レイヨン)	小西・富取 (銀行)	原田・佐久間 (商事・重工)	島野・今井 (海上・重工)		関東 48-34	
35	1986 昭和61	田部文一郎 (商工会長)	沢 英樹 (化成)	関口・高田 (重工)	御供・青木 (重工・銀行)	島野・今井 (海上・重工)		関西 46-38	
36	1987 昭和62	鈴木永二 (化成会長)	沢 英樹 (化成)	原田・川崎 (商事・石油)	高橋・鈴木 (電機)	島野・今井 (海上・重工)		関東 46-37	
37	1988 昭和63	鈴木永二 (化成会長)	昭和天皇御病気の為中止						
38	1989 平成元	鈴木永二 (化成会長)	岩原慎二 (化成)	川崎・寛 (石油・自工)	貴志・庄野 (化成)	芥川・善積 (化成)		関東 45-39	
39	1990 平成2	鈴木永二 (化成会長)	辻本 豊 (レイヨン)	原田・上田 (商事)	豊福・金子 (化成・郵船)	芥川・善積 (化成)		関東 50-31, 3分	
40	1991 平成3	飯田庸太郎 (重工会長)	藤井 淳 (商事)	古賀・樺原 (化成)	瀬口・須藤 (化成・重工)	佐野・溝口 (化成・海上)		関東 28-21, 35分	
41	1992 平成4	飯田庸太郎 (重工会長)	藤井 淳 (商事)	坂尾・伊丹 (キリン)	瀬口・福井 (化成)	佐野・溝口 (化成・海上)		関東 49-29, 6分	
42	1993 平成5	飯田庸太郎 (重工会長)	辻本 豊 (レイヨン)	山田・宮本 (アルミ)	青木・荒木 (銀行)	善積・溝口 (化成・海上)		関東 52-32	
43	1994 平成6	飯田庸太郎 (重工会長)	田村太郎 (商事)	川崎・上田 (石油・商事)	山口・高見 (レイヨン)	前田・早川 (化学)		関東 38-28, 18分	
44	1995 平成7	飯田庸太郎 (重工相談役)	杉本長太郎 (化学)	雨天中止	雨天中止	金子・坂田 (明生)		雨天中止	
45	1996 平成8	飯田庸太郎 (重工相談役)	渡辺 啓 (化学)	伊丹・好士 (キリン)	山守・田中 (化学)	金子・坂田 (明生)		関東 47-37	
46	1997 平成9	藤村正哉 (マテリアル会長)	長谷川 寛 (電機)	雨天中止	雨天中止 120才↓	渡辺・工藤 (明生)		雨天中止	
47	1998 平成10	藤村正哉 (マテリアル会長)	古村賢紀 (電機)	川崎・樺原 (石油・化学)	小杉・大日方 (銀行)	渡辺・杉山 (明生)		関東 52-32	
48	1999 平成11	藤村正哉 (マテリアル会長)	塚原 識 (銀行)	花岡・沼田 (電機)	浦中・梅沢 (化学)	瀧澤・小柳 (化学)		関東 49-34, 1分	
49	2000 平成12	藤村正哉 (マテリアル会長)	塚原 識 (銀行)	平岡・土肥 (重工・電機)	初澤・池田 (電機)	瀧澤・小柳 (化学)		関西 42-41, 1分	
50	2001 平成13	藤村正哉 (マテリアル相談役)	古村賢紀 (電機)	沼田・榊井 (電機)	岡崎・石山 (石油)	瀧澤・小柳 (化学)		関東 47-27	
51	2002 平成14	藤村正哉 (マテリアル相談役)	塚原 識 (銀行)	宮田・須藤 (重工)	瀧口・梅沢 (化学)	瀧澤・小柳 (化学)		関西 41-31	
52	2003 平成15	藤村正哉 (マテリアル相談役)	古村賢紀 (電機)	宮田・竹部 (重工・キリン)	神田・小杉 (銀行)	瀧澤・小柳 (化学)		関西 26-20	
53	2004 平成16	岸 暁 (銀行相談役)	古村賢紀 (電機)	雨天中止	雨天中止	今城・吉井 (海上)		雨天中止	
54	2005 平成17	岸 暁 (銀行相談役)	古村賢紀 (電機)	池田・片寄 (電機)	毎野・西 (商事)	安井・星 (生命)		関東 28-23	
55	2006 平成18	岸 暁 (銀行相談役)	古村賢紀 (商事)	佐伯・津田 (SCM・重工)	出口・近藤 (重工)	市川・原 (海上)	江頭・塩谷 (生命)	関東 16-9	
56	2007 平成19	岸 暁 (銀行相談役)	前田信二 (銀行)	瀧口・高見 (化学・レイヨン)	藤井・吉田 (電機)	深田・清水 (銀行)	武井・若月 (銀行)	関西 19-6	
57	2008 平成20	岸 暁 (銀行相談役)	中原健一郎 (商事)	若菜・茅本 (重工・化学)	鈴木・君塚 (海上)	安井・伊藤 (生命)	黒崎・鳥山 (商事)	関西 14-11	
58	2009 平成21	井手明彦 (マテリアル社長)	藤田瑞飛 (生命)	出口・淀川 (重工)	瀧口・矢野 (化学)	古賀・加藤 (生命)	細江・佐藤 (生命・海上)	関東 13-12	

注. 上表大会の開催地はすべて東京

回数	年 度	委員長	H. I. 盃	130才トーナメント	120才トーナメント	女子ダブルス	男子ダブルス	東西対抗戦
59	2010 平成22	井手明彦 (マテリアル会長)	藤田瑞飛 (生命)	近藤・淀川 (重工)	小野・赤沼 (硝子)	伊藤・五十嵐 (生命)	渡辺・瀬野 (電機)	関西 13-12
60	2011 平成23	井手明彦 (マテリアル会長)	藤田瑞飛 (生命)	高橋・金子 (硝子)	後藤・古屋 (電機)	古賀・松重 (生命)	星村・狩谷 (生命)	関東 16-9
61	2012 平成24	井手明彦 (マテリアル会長)	藤田瑞飛 (生命)	東・淀川 (重工)	伊藤・矢野 (化学)	五十嵐・鍋谷 (生命)	星村・狩谷 (生命)	関西 13-12

注. 上表大会の開催地はすべて東京

## H. I. 盃選手権試合・全三菱庭球大会開催要項

幹事会社

三菱重工業㈱、三菱化工機㈱

三菱地所㈱、三菱製鋼㈱

### 1. 大会日程

日 程	種 目 等	会 場	試合受付時間等
第 1 日 10月25日(金)	140オトーナメント1～2回戦 120オトーナメント1回戦	海上 多摩コート	試合開始30分前
第 2 日 10月26日(土)	H. I. 盃、女子ダブルス 1回戦 男子ダブルスブロック別リーグ戦 140オトーナメント3～4回戦 120オトーナメント2～3回戦	銀行 武蔵野コート	試合開始30分前
	男子ダブルスブロック別リーグ戦	海上 多摩コート	
第 3 日 10月27日(日)	開会式	銀行 武蔵野コート	8:30からの 開会式に原則必ず ご参加ください *試合受付は開始 30分前にお願 い します
	H. I. 盃、女子ダブルス準決勝・決勝戦 男子ダブルス決勝トーナメント 140オトーナメント準決勝・決勝戦 120オトーナメント準決勝・決勝戦 東西対抗試合・特別試合		
	東西対抗試合		
	懇親会	吉祥寺第一ホテル	17:30開始

\*コート割、開始時間、会場案内はP16～P19をご参照下さい。

### 2. 役 員

委 員 長： 三菱庭球同好会会長 井手明彦 (三菱マテリアル)

副委員長： 畔柳信雄 (三菱東京UFJ銀行) 宮永俊一 (三菱重工業)

山中菊雄 (三菱化工機) 田島 穰 (三菱地所)

大野信道 (三菱製鋼)

同好会相談役： 藤村正哉 (三菱マテリアル) 岸 暁 (三菱東京UFJ銀行)

審 判 長： 藤井道雄 (三菱電機)

副審判長： 武田 彰 (三菱商事)

H. I. 盃委員： 石井 敦 (東京海上日動) 松岡信幸 (三菱電機)

荒谷雅夫 (明治安田生命) 佐々立之 (三菱東京UFJ銀行)

大地重雄 (三菱化学) 木村博光 (三菱ふそう)

牧村祐一 (三菱重工業) 島村健司 (三菱マテリアル)

佐久間 浩 (三菱商事)

H. I. 盃地区委員： [関東] 渡辺 啓 (三菱化学) [中京] 佐々木 史朗 (三菱電機)

[関西] 直木 隆明 (三菱電機) [九州] 横濱 克彦 (三菱重工業)



### 3. 参 加 会 社

旭硝子(株)	三菱アルミニウム(株)	三菱商事(株)	三菱電線工業(株)
キリンホールディングス(株)	三菱化学(株)	三菱商事RtMジャパン(株)	(株)三菱東京UFJ銀行
JXホールディングス(株)	三菱化工機(株)	三菱伸銅(株)	三菱ふそうトラック・バス(株)
東京海上日動火災保険(株)	三菱ガス化学(株)	三菱製鋼(株)	三菱マテリアル(株)
(株)ニコン	三菱地所(株)	三菱製紙(株)	三菱レイヨン(株)
日本郵船(株)	三菱自動車工業(株)	三菱倉庫(株)	三菱UFJ証券ホールディングス(株)
(株)ピーエス三菱	三菱重工業(株)	(株)三菱総合研究所	三菱UFJ信託銀行(株)
明治安田生命保険(相)	三菱樹脂(株)	三菱電機(株)	(31社)

### 4. 試 合 方 法

〔使用ボール：ダンロップフォート〕

種 目	資 格 等	方 法
(1) H. I. 盃 (男子シングルストーナメント)	前年優勝者、地区代表 (関東3、関西2、中京・九州各1)	3セットマッチ (6ゲームオール、7ポイントタイブレーク)
(2) 女子ダブルス	前年優勝者、地区代表 (関東3、関西3、中京1)	同 上
(3) 男子ダブルス	地区代表24組によるブロック別リーグ予選、決勝トーナメント (関東10、関西9、中京4、九州1)	予選、SF8ゲームマッチ (8ゲームオール、7ポイントタイブレーク) 決勝戦3セットマッチ (6ゲームオール、7ポイントタイブレーク)
(4) 140才トーナメント	本年、満68才以上で合計140才以上のペアによる男子ダブルストーナメント	1セットマッチ (6ゲームオール、7ポイントタイブレーク)
(5) 120才トーナメント	本年、満58才以上で合計120才以上のペアによる男子ダブルストーナメント	同 上
(6) 東西対抗試合	東軍(関東以東)・西軍(中京以西) 男子各16組、女子各3組の対抗戦。	3セットマッチ (6ゲームオール、7ポイントタイブレーク)
(7) 特別試合	H. I. 盃選手権出場選手および女子ダブルス出場選手によるダブルス	2セットマッチ (6ゲームオール、7ポイントタイブレーク)

〔懇親試合〕 1セットマッチ(6ゲームオール、7ポイントタイブレーク)

男子ダブルス予選敗者、140才、120才トーナメントの10月26日までの敗者、その他ご希望の方は、懇親試合に参加できますので、10月26日に各コートの大会運営本部まで申し出てください。但し、コート事情によりご希望に沿えない場合もありますので、ご了承ください。

### 5. 雨 天 時 の 対 応

- (1) 原則、各社単位での確認をお願いします。
- (2) 各日とも、開始時間の1時間30分前から各コートに大会幹事がおりますので各社連絡員から問合せください。選手から各社連絡員に連絡がつかない場合は、直接コートに問合せいただいても結構です。
- (3) 10月27日(日)が雨天で試合中止となった場合は、懇親会のみ時間を早めて16:00から開催します。吉祥寺第一ホテル(Tel 0422-21-4411)にご集合ください。

## 大会次第 10月27日(日)

1. 開会式(三菱東京UFJ銀行武蔵野コート) ( 8 : 3 0 )
  - (1) 集 合
  - (2) 挨拶 井手大会委員長
  - (3) 優勝盃・優勝旗返還 井手大会委員長
  - (4) 諸 注 意 藤井審判長
  
2. 試合開始(コート時間割をご参照) ( 9 : 0 0 )
  
3. 試合終了 (1 6 : 0 0 )
  
4. 閉会式及び懇親会(吉祥寺第一ホテル 8階天平の間) (1 7 : 3 0 )
  - (1) 開会挨拶 井手大会委員長
  - (2) 乾 杯 宮永大会副委員長
  - (3) 優勝盃・優勝旗・賞品授与 田島大会副委員長、大野大会副委員長  
および優勝者挨拶
    - ① H. I. 盃優勝者挨拶
    - ② 女子ダブルス優勝者挨拶
    - ③ 男子ダブルス優勝者挨拶
    - ④ 140才トーナメント優勝者挨拶
    - ⑤ 120才トーナメント優勝者挨拶
    - ⑥ 東西対抗優勝旗授与
  - (4) 最高年令出場者挨拶
  - (5) 閉 会 の 辞 山中大会副委員長
  - (6) 万 才 三 唱 武田副審判長
  
5. 閉 会 (解 散) (1 9 : 0 0 )

### 6. 記 念 撮 影

懇親会終了後、H. I. 盃、女子ダブルスの出場者、男子ダブルストーナメント、140才トーナメント・120才トーナメントの優勝・準優勝者、東西対抗試合主将並びに大会役員の方々の記念撮影を行ないます。

## 諸 注 意 事 項

### 1. コートへのアクセス

- (1) 各コートへの交通手段と連絡先は、P18, 19をご参照ください。
- (2) 第1日・2日は専用バスの配車はいたしませんので、各自お越し下さい。
- (3) 第3日（銀行コート、郵船コート）は専用バスを運行しますので、ご利用下さい。
- (4) マイカーでのご来場は厳禁です（第1日のみ海上コート可）。

### 2. 更 衣 室

各コートとも、更衣室のロッカーはご利用ができませんのでお荷物は各自で管理してください。

### 3. 試 合 進 行

- (1) 試合進行はコート時間割に従って行ないますが、変更する場合がありますので、予め試合進行掲示板にてご確認下さい。近隣対策上、試合前の選手の呼び出し（場内アナウンス）は致しませんのでご注意ください。なお、個人のご都合による時間割の変更は受け付けいたしません。
- (2) 練習時間は、試合進行上、H. I . 盃、女子ダブルスは5分以内、その他は3分以内と致しますので厳守願います。

### 4. 審 判

- (1) H. I . 盃、女子ダブルス、男子ダブルス、140才、120才トーナメントの決勝はコールアンパイアがつきますが、その他の試合はセルフジャッジですのでご協力下さい。
- (2) 試合結果は、勝者がスコアカードに記入の上ボールと一緒に大会本部まで届けて下さい。

### 5. 昼 食

- (1) 第1日は、昼食の準備はありません。各自ご準備ください
- (2) 第2日、第3日の両日は、選手及び大会運営役員に準備します。各コートに設置している弁当お渡し所から適宜お持ち下さい。ジュースの空カン・ゴミは所定の場所にお捨て下さい。

### 6. D E F

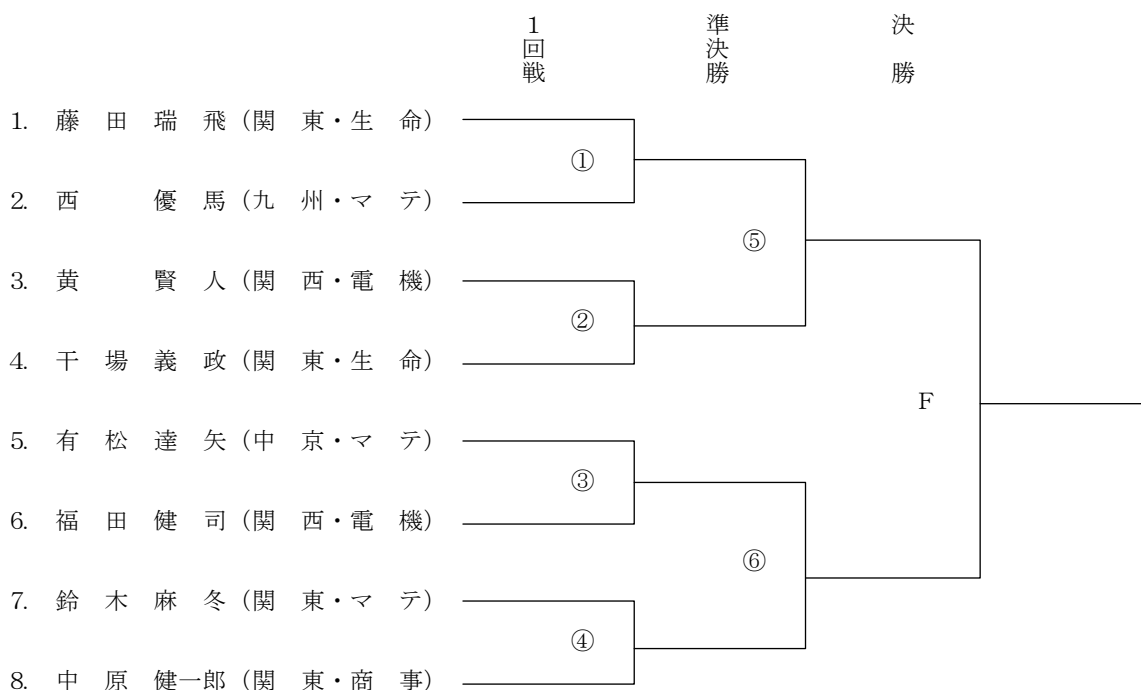
- (1) 所定の時間までに試合前受付がない場合は、原則棄権となります。
- (2) やむを得ずDEFの場合は速やかに自社の連絡員経由でご連絡下さい。

### 7. 参 加 費

関東地区の参加者は3,000円、関西地区は1,000円、140才トーナメント、120才トーナメントは3,000円を参加費として後日徴収致します。尚、会場への交通・宿舎などについては、各自にて手配願います。

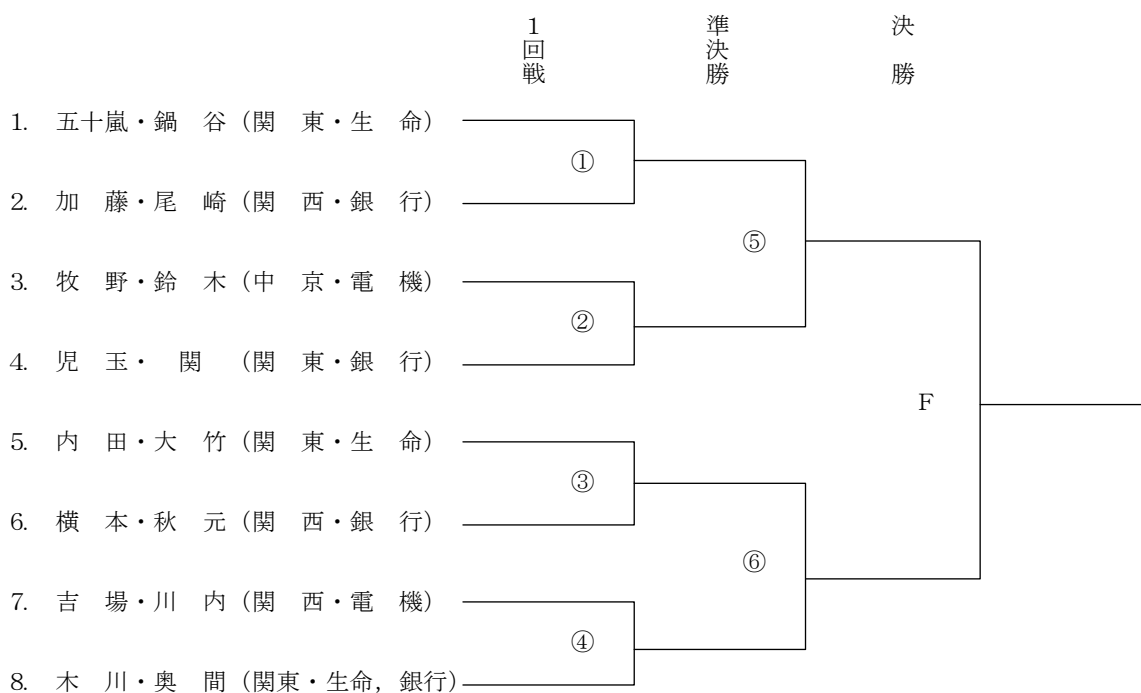
## H. I. 盃 (男子シングルス)

3セットマッチ (6ゲームオールの場合, 7ポイントタイブレーク)



## 女 子 ダ ブ ル ス

3セットマッチ (6ゲームオールの場合, 7ポイントタイブレーク)

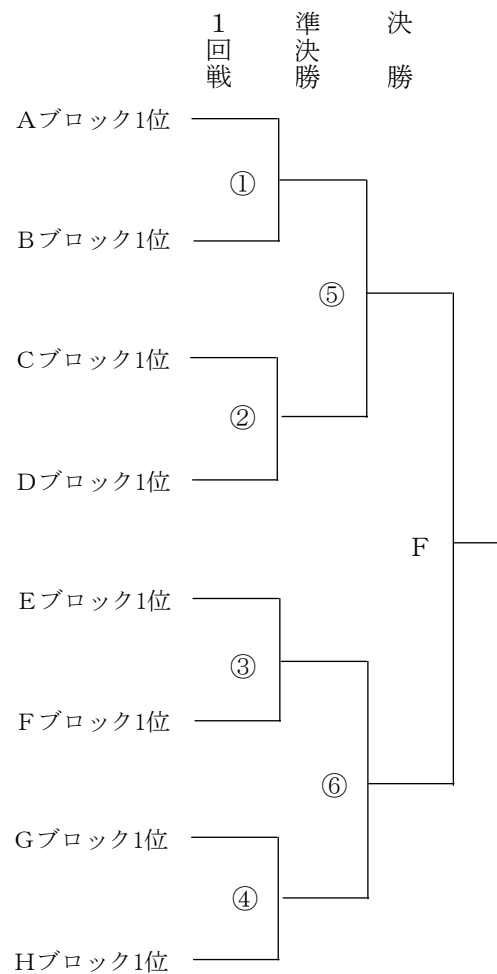


# 男子ダブルス

## ブロック別リーグ戦

Aブロック	1	星村・狩谷 (関東・生命)
	2	井上・牧野 (中京・レイヨン)
	3	田中・岩田 (関西・電機)
Bブロック	1	寺内・長谷川 (関東・海上)
	2	竹花・駒田 (関東・電機)
	3	河田・五嶋 (中京・重工)
Cブロック	1	井手・加藤 (関東・生命、マテ)
	2	天清・瀧沢 (関西・電機)
	3	青野・木下 (関西・重工)
Dブロック	1	田元・二村 (関東・生命)
	2	高梨・橋場 (関東・銀行)
	3	辻本・西改 (関西・麒麟)
Eブロック	1	黒崎・鳥山 (関東・商事)
	2	光嶋・佃 (関西・重工)
	3	上田・笹谷 (関西・電機)
Fブロック	1	田所・若月 (関東・銀行)
	2	廣田・横山 (関東・電機)
	3	林・森永 (関西・重工)
Gブロック	1	古村・牟田 (関東・商事)
	2	岡田・塚本 (中京・銀行、海上)
	3	大出・吉田 (九州・電機、重工)
Hブロック	1	小川・橋本 (中京・重工)
	2	福田・高野 (関西・自動車)
	3	橋本・丸山 (関西・銀行)

## 決勝トーナメント



ブロック別リーグ戦の1試合目は、各ブロックの1-2が対戦。これを時間割では①と表示します。2試合目は1-3の対戦（時間割の表示は②）、3試合目は2-3の対戦（時間割の表示は③）です。

### 【ブロック別リーグ戦 「表示例」】

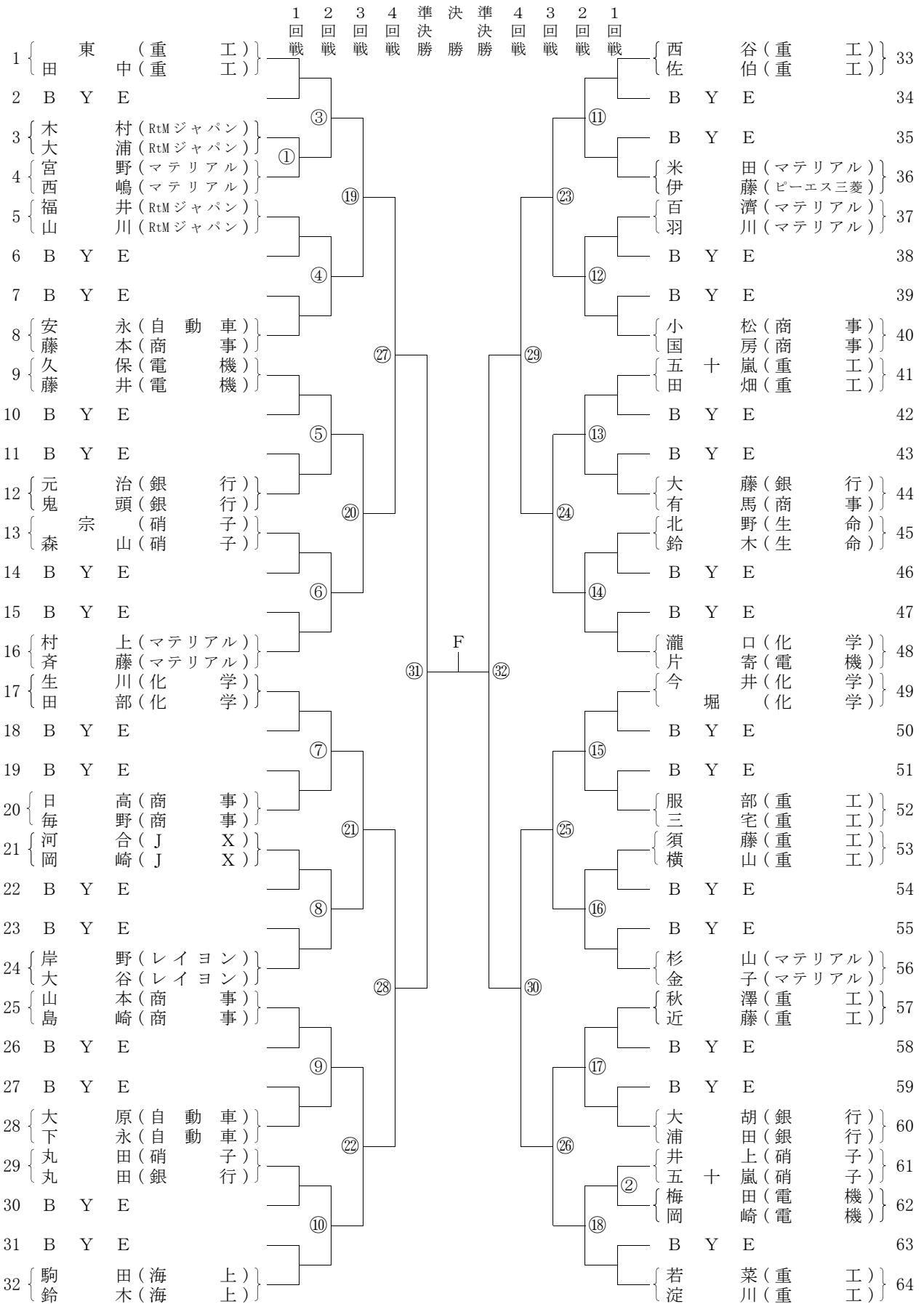
		時間割の表示
1試合目	A 1 - A 2	A ①
2試合目	A 1 - A 3	A ②
3試合目	A 2 - A 3	A ③

### 男子ダブルスブロック内順位について

- ① ブロックリーグ戦において、最も勝率の高い組を1位とする。
  - ② 3組が1勝1敗で並んだ場合は、取得ゲーム率（取得ゲーム数／全得失ゲーム数）をもってブロック1位を決定する。
  - ③ 3組とも取得ゲーム率同率で並んだ場合は、大会運営本部にて順位決定方法を協議する。
- ※ 取得ゲーム率の計算の際、不戦勝の場合は8-0（不戦敗は0-8）で計算し、途中棄権の場合は、棄権した時点のスコアから、残りのゲームを勝利ペアが全て取ったと仮定して計算する。（例：A対Bの試合で、Aから3-5の時点でBが途中棄権した場合、Aが8-5で勝利したとして計算する。）

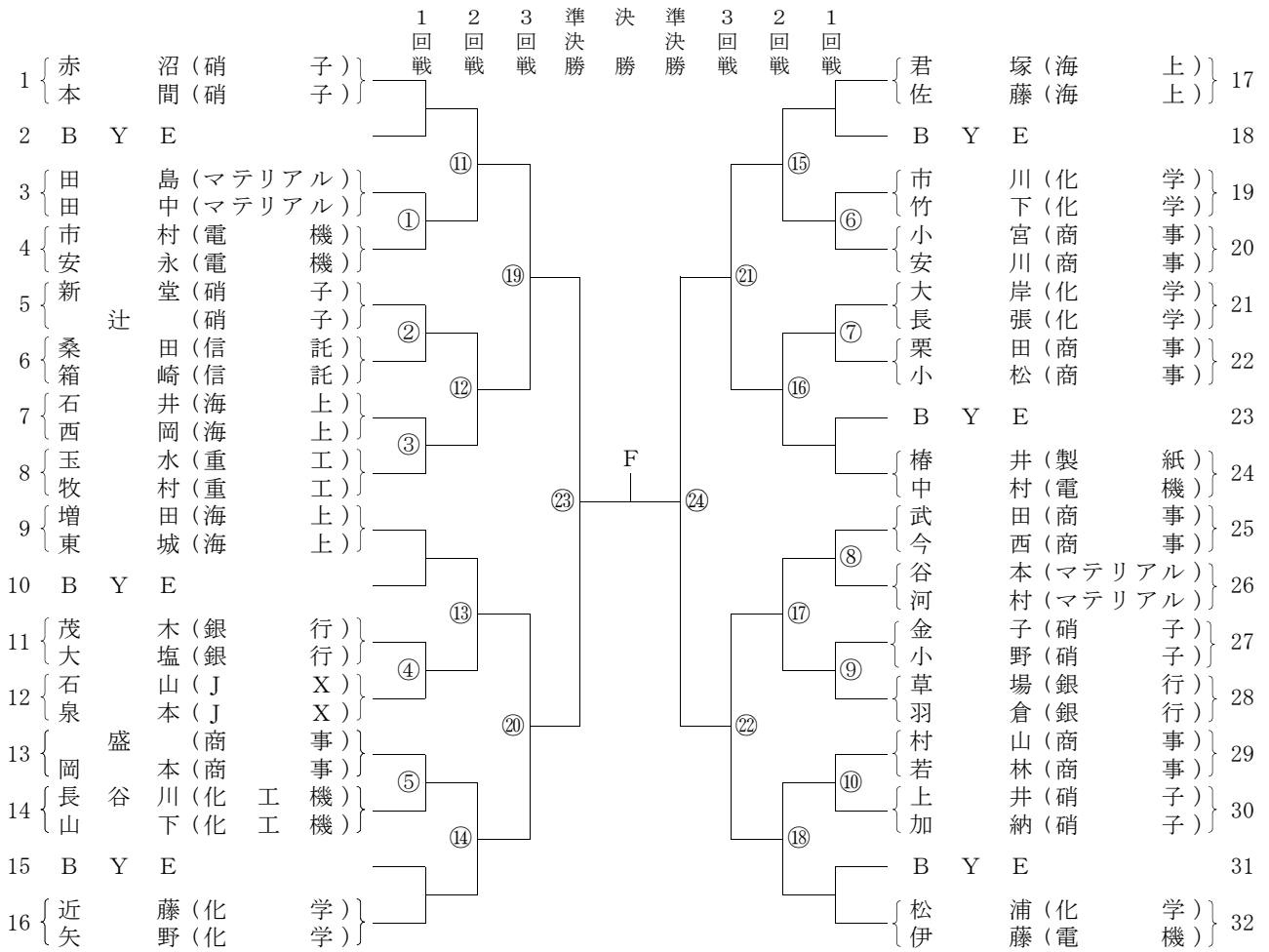
# 140 オートナメント

1セットマッチ (6ゲームオールの場合, 7ポイントタイブレーク)



# 120 オトーナメント

1セットマッチ (6ゲームオールの場合, 7ポイントタイブレーク)



# 東西対抗試合

3セットマッチ (6ゲームオールの場合, 7ポイント タイブレイク)

## <男子ダブルス>

	東 軍		西 軍
1.	{ 大地 (化学) }	—	{ 安 徳 (自動車) }
	{ 渡 辺 (化学) }		{ 加 藤 (自動車) }
2.	{ 松 岡 (電機) }	—	{ 山 崎 (重工) }
	{ 遠 藤 (電機) }		{ 東 (重工) }
3.	{ 佐久間 (商事) }	—	{ 岡 田 (電機) }
	{ 柏 木 (商事) }		{ 白 村 (電機) }
4.	{ 坂 野 (銀行) }	—	{ 福 田 (重工) }
	{ 佐 々 (銀行) }		{ 間 野 (重工) }
5.	{ 高 橋 (生命) }	—	{ 高 橋 (自動車) }
	{ 引 村 (生命) }		{ 堀 場 (自動車) }
6.	{ 下 田 (信託) }	—	{ 片 山 (J X) }
	{ 中 村 (信託) }		{ 山 崎 (J X) }
7.	{ 宮 本 (J X) }	—	{ 黒 田 (電機) }
	{ 志 田 (J X) }		{ 関 (電機) }
8.	{ 杉 本 (ガス化) }	—	{ 小 山 (電機) }
	{ 三 木 (ガス化) }		{ 佐 藤 (電機) }
9.	{ 原 (樹脂) }	—	{ 栗 山 (マテリアル) }
	{ 篠 浦 (樹脂) }		{ 吉 田 (マテリアル) }
10.	{ 田 端 (キリン) }	—	{ 須 田 (電機) }
	{ 足 海 (キリン) }		{ 藤 井 (電機) }
11.	{ 山 内 (自動車) }	—	{ 山 田 (化学) }
	{ 阿 部 (自動車) }		{ 藤 田 (化学) }
12.	{ 佐 藤 (化工機) }	—	{ 行 成 (電機) }
	{ 菅 原 (化工機) }		{ 河 野 (電機) }
13.	{ 仲 野 (電機) }	—	{ 垂 水 (重工) }
	{ 輿 石 (電機) }		{ 巨 島 (重工) }
14.	{ 田 島 (地所) }	—	{ 榎 原 (電機) }
	{ 前 田 (地所) }		{ 岡 部 (電機) }
15.	{ 木 村 (ふそう) }	—	{ 伊 藤 (ガス化) }
	{ 武 井 (ふそう) }		{ 河 野 (ガス化) }
16.	{ 長 尾 (重工) }	—	{ 石 井 (電機) }
	{ 小 串 (重工) }		{ 長 尾 (電機) }

## <女子ダブルス>

	東 軍		西 軍
1.	{ 松 田 (生命) }	—	{ 吉 成 (銀行) }
	{ 金 子 (生命) }		{ 木 下 (銀行) }
2.	{ 宇 野 (銀行) }	—	{ 御 厨 (信託) }
	{ 柏 木 (銀行) }		{ 北 浦 (信託) }
3.	{ 鎌 田 (地所) }	—	{ 美 寿 見 (電機) }
	{ 土 田 (地所) }		{ 布 目 (電機) }

## 特別試合

2セットマッチ

(6ゲームオールの場合, 7ポイント タイブレイク)

男子ダブルス

{ }	—	{ }
-----	---	-----

女子ダブルス

{ }	—	{ }
{ }	—	{ }



## 第1日（10月25日）コート時間割

海 上 コ ー ト						
コートNo. 時 間	1	2	3	4	5	6
10 : 30	140 才（1回戦・2回戦）				120 才（1回戦）	
11 : 15	①	②	④	⑤	①	②
12 : 00	140 才（2回戦）				120 才（1回戦）	
12 : 45	③	⑦	⑧	⑨	③	④
13 : 30	140 才（1回戦）				120 才（1回戦）	
14 : 15	⑥	⑩	⑪	⑫	⑤	⑥
	140 才（1回戦）				120 才（1回戦）	
	⑬	⑭	⑮	⑯	⑦	⑧
	140 才（2回戦）			120 才（1回戦）		
	⑰	⑱			⑨	⑩

## 第2日（10月26日）コート時間割

銀 行 コ ー ト								海 上 コ ー ト								
コートNo. 時 間	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4				
9 : 00	140 才（3回戦）								/							
9 : 45	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖								
10 : 30	120 才（2回戦）															
11 : 15	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱								
12 : 00	H. I. 盃 （1回戦）				140 才（4回戦）											
12 : 45	①	②	③	④	㉗	㉘	㉙	㉚								
13 : 30	女子ダブルス （1回戦）				男子ダブルス（ブロック別）											
14 : 45	⑤	⑥	⑦	⑧	E①	F①	G①	H①								
	120 才（3回戦）				男子ダブルス（ブロック別）								男子ダブルス（ブロック別）			
	⑲	⑳	㉑	㉒	E②	F②	G②	H②					A①	B①	C①	D①
	女子ダブルス （1回戦）				男子ダブルス（ブロック別）								男子ダブルス（ブロック別）			
	①	②	③	④	E③	F③	G③	H③					A②	B②	C②	D②
	140 才（2回戦）				男子ダブルス（ブロック別）								男子ダブルス（ブロック別）			
	⑤	⑥	⑦	⑧	/								A③	B③	C③	D③
	120 才（1回戦）															

## 第3日（10月27日）コート時間割

	銀行コート								郵船コート				
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5
8:30	開会式（原則、必ずご参加ください）								/				
9:00	H. I. 盃 (SF)		女子 ダブルス (SF)		男子ダブルス (1回戦)								
:30	⑤	⑥	⑤	⑥	①	②	③	④					
10:00					140才 (SF)		120才 (SF)		東西対抗 男子				
:30					⑳	㉑	㉒	㉓	5	6	7	8	9
11:00					特別試合 女子		東西対抗 男子		東西対抗 男子		東西対抗 女子		
:30							1	2	10	11	1	2	3
12:00	140才 (F)	120才 (F)	男子 ダブルス(SF)				特別 試合 男子		東西対抗 男子				
:30			⑤	⑥			3	4	12				
13:00	H. I. 盃 (F)		女子 D (F)		東西対抗 男子				東西対抗 男子				
:30			S F 後、 1 時 間 後 に 開 始		男子 D (F)		13	14					
14:00							懇親試合						
:30													
15:00													
:30													
16:00	【バス利用】16:30銀行コート→吉祥寺→17:10吉祥寺第一ホテル 16:40銀行コート→17:00吉祥寺第一ホテル 16:50銀行コート→17:10吉祥寺第一ホテル												
:30													
17:30	懇親会 (吉祥寺第一ホテル)												
19:00													

○注意事項

- 出場選手は、必ず開会式にご参加ください。但し、東西対抗選手等で当日移動の方は、除きます。
- 練習時間は、H.I.盃、女子ダブルスが5分以内、その他が3分以内としますので厳守ください。
- 進行は、本部横に掲示されますので、前広にご確認ください。天候、進行、その他やむを得ない事由により、コート割・時間割を変更することがあります。
- 大会役員の方は、11:30から銀行コートのクラブハウス2Fにて昼食会を行います。H.I.盃、女子ダブルス出場選手は、選手紹介を行いますのでご参集ください。
- 懇親試合をご希望の方は、銀行コートまたは海上コートの大会運営本部へ申出ください。但し、コート事情によりご希望に沿えない場合もありますので、ご了承ください。

○試合方法

H. I. 盃	3セットマッチ
女子ダブルス	(6ゲームオール, 7ポイントタイブレーク)
東西対抗	1セットマッチ
140才T	(6ゲームオール, 7ポイントタイブレーク)
120才T	(6ゲームオール, 7ポイントタイブレーク)
男子	8ゲームマッチ
D	(8ゲームオール, 7ポイントタイブレーク)
~SF	(8ゲームオール, 7ポイントタイブレーク)
F	3セットマッチ
(6ゲームオール, 7ポイントタイブレーク)	
特別試合	2セットマッチ
	(6ゲームオール, 7ポイントタイブレーク)

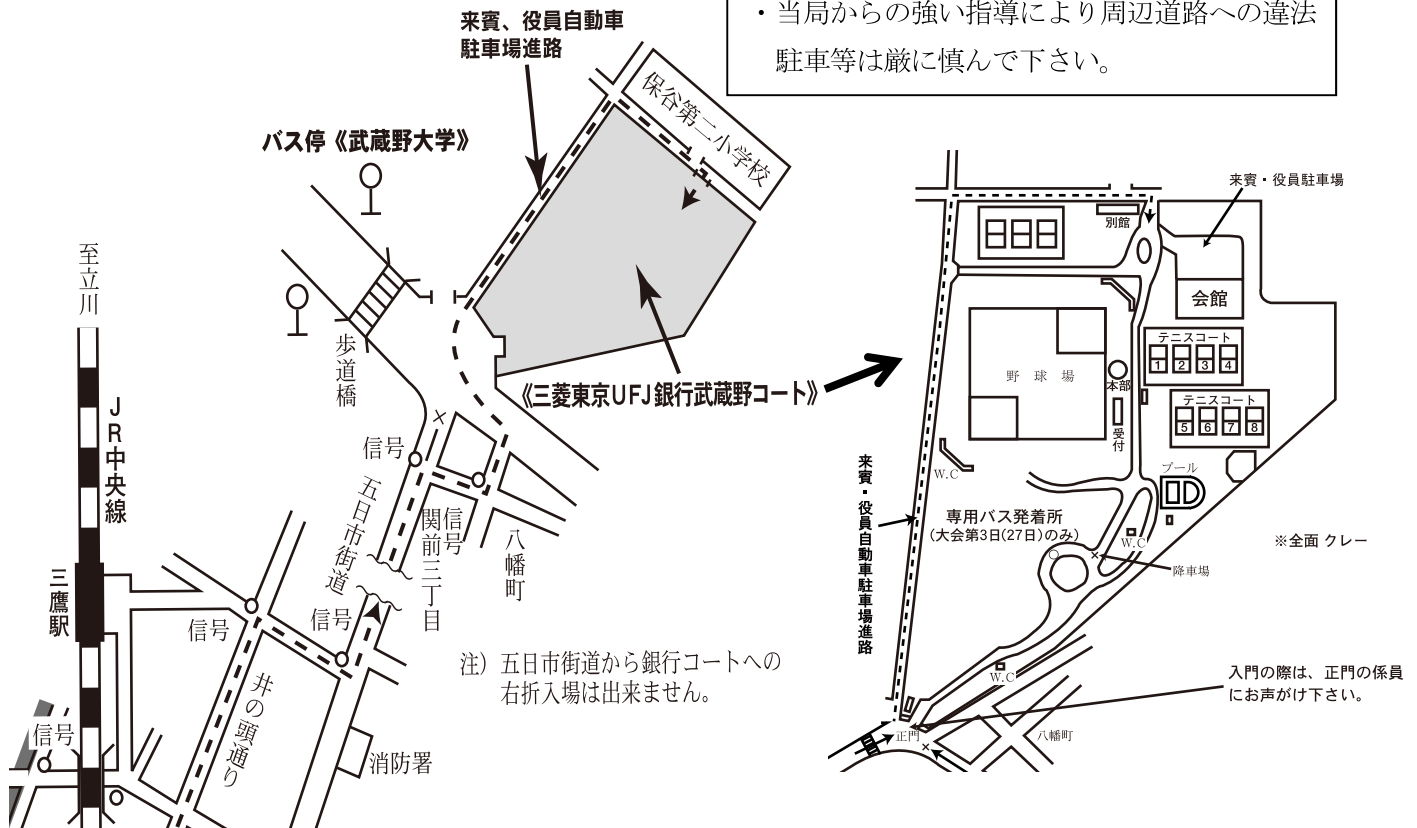
# 大会会場案内図（1）

## 《三菱東京UFJ銀行武蔵野コート》

東京都西東京市柳沢4-4-40  
TEL. 0424-61-0770

**マイカーでのご来場は厳禁です**

- ・銀行コート駐車場の使用は、各社役員、来賓、大会役員の車に限定します。
- ・当局からの強い指導により周辺道路への違法駐車等は厳に慎んで下さい。



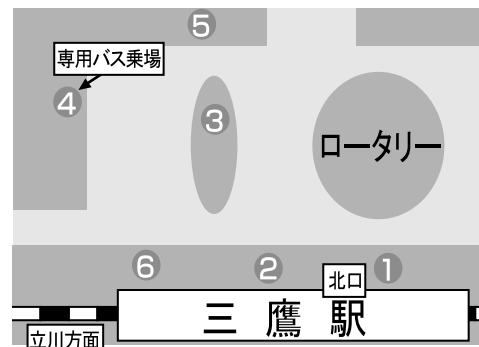
### ● 10月27日（日）銀行コートとのアクセス

- (1)第2日(10/26)は専用バスの配車はいたしませんので、各自お越し下さい。
- (2)第3日(10/27)は専用バスを運行しますので、ご利用下さい。

#### <三鷹駅⇒銀行コート⇒吉祥寺駅／懇親会場間の連絡バス>

発車		到着		備考
7:50	三鷹駅	8:00	銀行コート	大型1台
8:00	三鷹駅	8:10	銀行コート	
8:10	三鷹駅	8:20	銀行コート	
16:30	銀行コート	17:05	吉祥寺第一ホテル	*大型2台
16:40	銀行コート	17:10	吉祥寺第一ホテル	マイクロ2台
16:50	銀行コート	17:20	吉祥寺第一ホテル	大型1台

\*16:30 銀行コート発のバスは、吉祥寺駅経由です。



## 大会会場案内図（２）

### 《日本郵船飛田給コート》

調布市飛田給 1-54-1

（飛田給駅下車徒歩約5分）

TEL. 0424-82-3152

### ●10月27日（日）

#### ＜銀行コート⇄郵船コート間の連絡バス＞

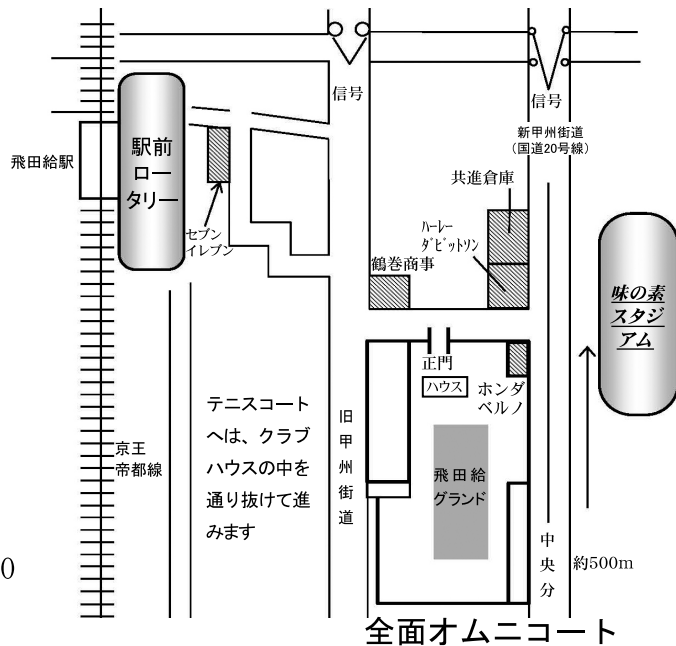
郵船コートの方は、銀行コートでの開会式ご参加後に、銀行コート発のバスでご移動ください。所要時間は、約30分です。

#### 【時刻表（マイクロバス）】

◇銀行発 9:00, 10:00, 11:00, 12:00

◇郵船発 10:00, 11:30, 12:00, 13:00, 14:00

マイカーでのご来場は厳禁です



### 《東京海上日動多摩総合グラウンド》

八王子市別所 2-57

TEL 0426-77-8619

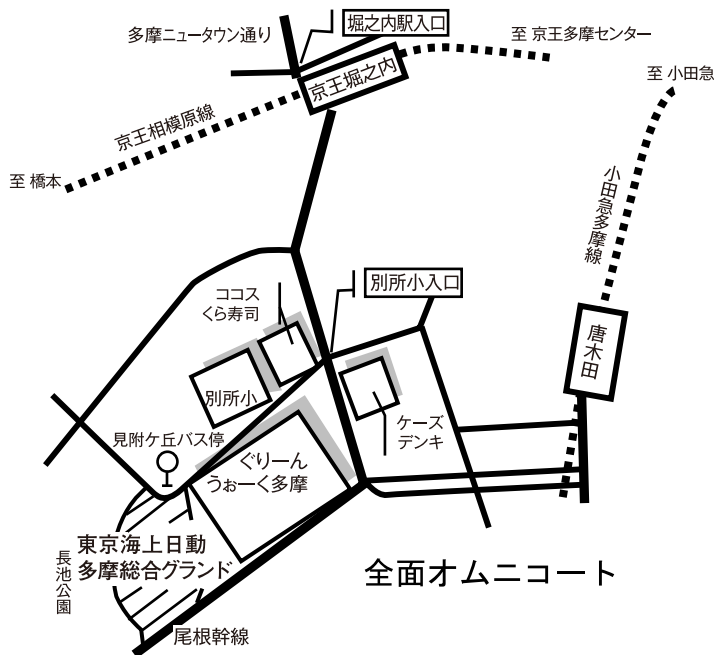
#### ① 京王相模原線

「京王堀之内」駅よりバス  
「見附橋循環」のりば④番  
にて「見附ヶ丘」下車

#### ② 京王相模原線

「京王堀之内」駅  
または小田急多摩線  
「唐木田」駅より  
タクシー利用

第1日のみマイカーの利用可



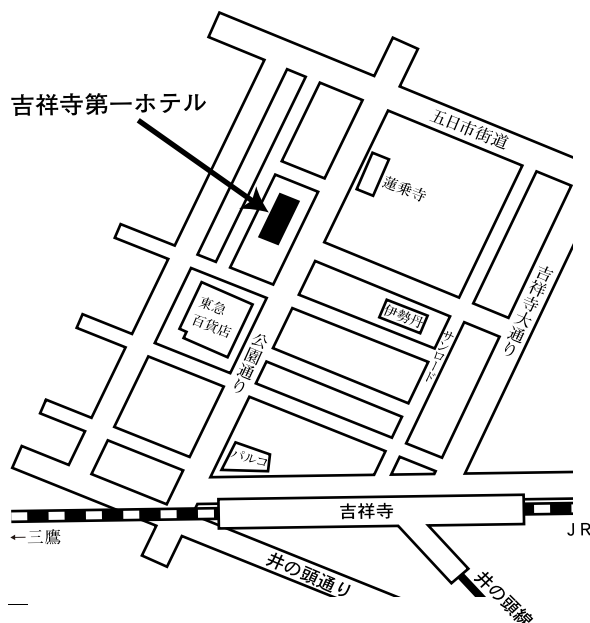
### 懇親会会場案内図

（吉祥寺第一ホテル 天平の間）

TEL. 0422-21-4411

地下駐車場は、大会役員、来賓のみ利用できます。

1F 玄関前は混雑しますので、19:00 懇親会閉会後は速やかに移動願います。



岩崎彦彌太氏は、明治 28 年（1895）9 月 15 日に、東京駒込の岩崎久彌邸（現在の六義園）で生まれた。父久彌、母寧子の長男、三菱創始者である彌太郎の孫にあたる。翌年（1896）、湯島の久彌新邸完成後、駒込から転居し、以後彦彌太氏は幼少時をこの湯島本邸で過ごした。

当時、岩崎家では生活面において江戸時代の大名の暮らし方を手本としており、彦彌太氏は、乳母をはじめとする養育係により育てられた。湯島本邸の西端に母の居室から六室間を置いて長男用の居住部分が突き出しており、小学校に上がるまではそこで育てられた。小学校入学時からは、本邸隣の育雛館（いくすうかん）で起居するようになる。育雛館は厳しい学塾であり、その生活は質素を極め、日曜日と夏冬の休暇くらいしか本邸に戻れなかった。

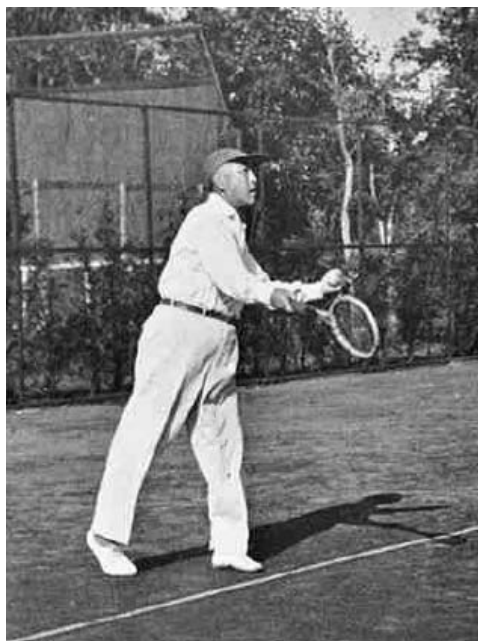
その後東京高等師範中学校（現筑波大学附属中学）に進学。この時期には、家庭教師の東京帝国大学大学院生、寺澤寛一（後の理学博士、日本学士院会員）より厳しい教育を受けた。彦彌太氏に続き、次男降彌、三男恒彌も同様に教育を受けた。育雛館のある龍岡町から大塚までは小遣いも少なかったので毎日徒歩で 5 年間通学した。

大正 2 年（1913）、旧制学習院高校に進学。高校時代にはすでにテニス（軟式）プレーヤーとして活躍したと思われる（早稲田との対抗戦記録に岩崎の名前がある）。大正 6 年（1917）に東京帝国大学文学部社会学科（現東京大学）に進学し、庭球部（軟式）の No.1 として活躍。大学在学中の大正 7 年頃、まだ少年であった青木岩雄（HI 盃 3 回優勝）にテニスの手解きをしたことを自ら書き残している。

大正 9 年（1920）に帝大を卒業し大学院に進学したが、この時に母寧子が詠んだ慈愛の歌がある。

『おもひ子が月の桂を折りえたり文の林の奥をきはめて』

この頃に硬式テニスに転向したと思われるが、大正 11 年（1922）9 月には、第 4 回東日トーナメントのダブルスで優勝するほどの腕前であった。



復活第 1 回でプレー中の彦彌太氏

翌月、ロンドン大学に留学するため渡英。この時、ロンドンで HI 盃を購入し、三菱庭球同好会に寄贈した。

これを受けて大正 12 年（1923）7 月に第 1 回 HI 盃が開催され、連綿と続いて今日に至っている。

大正 15 年（1926）、彦彌太氏は留学を終えて帰国し、三菱本社に入社。以降、社会人テニスでは数々の大会で活躍した。昭和 9 年（1934）に三菱本社の副社長に就任、戦後昭和 20 年（1945）11 月、財閥解体指令により副社長を辞任した。昭和 21 年（1946）、三菱本社は解散となった。

彦彌太氏は、ビジネスの第一線から退かれた後、テニス、乗馬、金魚等の多彩な趣味に興じられた。中でもテニスは一番の楽しみとされ、昭和 27 年（1952）の HI 盃復活第 1 回大会から昭和 42 年（1967）に 72 歳でご逝去される前年の第 15 回大会まで、ほぼ毎年観戦された。

「HI 盃 NAVI」のコーナーでは、HI 盃に纏わるエピソードをこれから毎年シリーズでご紹介してまいります。